

あなたもガリレオ博士！

～天文工作で探究心を育てよう！～

いよいよ夏休み！この夏、プラネタリウムでは、コズミックスクールやガリレオ教室などたくさん天文教室を実施します。ぜひ天文教室に参加して、ご家族でガリレオ博士をめざしてみたいかたがでしょうか？

楠歴史民俗資料館でふうせんヘリコプター！



6月6日(土)に、楠歴史民俗資料館で「ふうせんヘリコプター」の工作教室を行いました。地元の小学生をはじめ、約30人の子どもたちが参加しました。

空気の力でプロペラが回転する原理がわかると、空気の量を変えながら長く飛ばす方法を探っていました。



ガリレオ教室で太陽観察グラス作り！



毎月第2日曜日に実施しているガリレオ教室。6月14日(日)は「太陽の素顔」と題して、天文ボランティアさんが太陽についてお話をしたあと、太陽観察グラスを作ってもらいました。厚紙に太陽フィルターをつけた簡単なものですが、これがあると太陽を直接観ることができます。

天体観測ができる道具が家にあると、観察も身近になりますね。夏休みの自由研究に向けて手作りの道具をそろえてみてはいかがでしょうか。

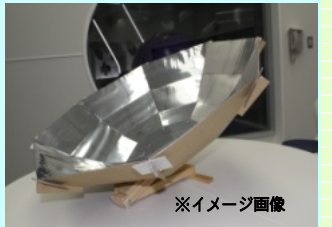
毎月第2日曜日に実施しているガリレオ教室。6月14日(日)は「太陽の素顔」と題して、天文ボランティアさんが太陽についてお話をしたあと、太陽観察グラスを作ってもらいました。厚紙に太陽フィルターをつけた簡単なものですが、これがあると太陽を直接観ることができます。



ソーラークッカーを作ろう！

8月1日(土)、2日(日)のコズミックスクールでは、太陽の光を集めるパラボラ式「ソーラークッカー」を作ってゆで卵作りに挑戦します。

ソーラークッカーの歴史はそれほど古くはありませんが、日本では、プラネタリウムメーカー五藤光学の創始者五藤齋三氏が、60年前の1955年、第1回国際太陽エネルギー学会で初めて実演しました。



プラネタリウムを作ろう！

天候を気にせず星空を眺められる場所が、プラネタリウム。手軽に星空を眺められるマイ・プラネタリウムがあるとさらに楽しいですね。そこで、8月15日(土)、16日(日)のコズミックスクールでは、ペーパークラフトでミニプラネタリウムを作ります。自分だけのプラネタリウムで、お部屋を癒しの空間にしてみたいかたがでしょうか。

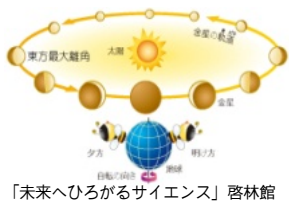


7月の天文現象は？

10日 金星が最大光度

東方最大離角を過ぎた金星は、だんだんと地球に近づいて、形も半球状から三日月状に変わってきています。金星までの距離が短くなることと、金星が大きく見えるということから、金星の明るさはさらに増し、10日(金)には最大の明るさで輝きます。

「宵の明星」として西の空に輝いていた金星は、夏休みが終わる頃には「明けの明星」として、太陽が昇る直前に東の空でひときわ明るく輝きます。



19日 夕方の西の空は賑やか！

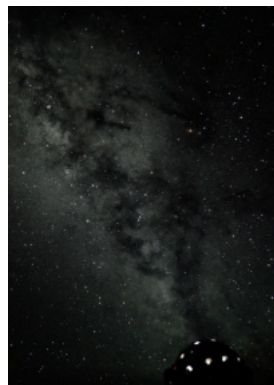
19日(日)の日の入り後、西の空には、細い月と、ひときわ明るい金星と木星、そして、しし座のレグルスも金星の上あたりに見えてきます。晴れていたなら、双眼鏡を使って賑やかな西の空を眺めてみましょう。



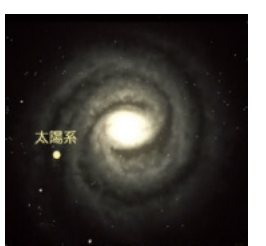
天の川のひみつ

右の写真は GINGA PORT 401で撮影した夏の天の川付近です。1億4000万個の星で再現しています。地上からでは雲のように見える天の川ですが、この星の集まりの正体はいったい何なのでしょう。

実は、天の川とは、私たちがすむ銀河系を内側から見た姿なのです。銀河系は直径が約10万光年もあり、1千億個とも2千億個とも言われる星の大集団です。上から見



ると渦を巻いているように見えることから、銀河系は「棒渦巻銀河」に分類されます。銀河系を横から見ると、お皿を2枚重ねたように見えます。真ん中の盛り上がっているところが銀河系の最も星が密集している中心部分です。夏はこの中心方向を見ているので、天の川が濃く見えます。しかし、銀河系の中央部分には暗黒星雲があるので、天の川はムラになって見えるのです。



新暦七夕と伝統的七夕

織姫と彦星が年に一度だけ会える七夕ですが、7月7日といえば日本列島の広い地域では梅雨のまっただ中。例年、この時期に2つの星を見ることはなかなか難しいものです。ではなぜ、天候が悪いこの時期に「星のお祭り」をするのでしょうか。

旧暦では日にちを数えるのに便利な月の暦(太陰暦)と、季節を知るのに便利な太陽の暦(太陽暦)を

組み合わせた太陰太陽暦を用いていました。旧暦の7月7日は、今年は8月20日に当たります。今の暦で7月7日はまだ広い地域で梅雨が明けていません。また、たとえ晴れていても日が暮れた1,2時間後ぐらいでは織姫星と彦星はまだ東の空の低いところにあります。しかし、旧暦だと梅雨も明け、織姫星と彦星は南の空によく見える頃となるわけです。そのため、現在でも「太陰太陽暦の7月7日に相当する日」に七夕祭を行うケースが多いようです。



★★観望会★★

《博物館主催きらら号観望会》

- ★ 7月25日(土)
- 時間：19時30分から21時
- 場所：市民公園
- 内容：月と土星を見よう！
- *当日の自由参加です。
- *天候不順の場合は中止します。



編集後記

いよいよ本格的に夏が始まる7月。夜空では七夕の織姫星、彦星や、夏の王様さそり座、翼を広げたはくちょう座などが勢ぞろいして、夜空を盛り上げています。夏は星を見る絶好の季節です。海や山など、美しい星空のもとにお出かけして、そんな星座たちを探してみましょ！

